
新・流星のロックマン 2300

レッドスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新・流星のロックマン 2300

【Nコード】

N2161W

【作者名】

レッドスター

【あらすじ】

スバル達の時代の100年後の物語・・・100年後は電波体の力を使わずに電波変換できる時代だが・・・主人公の星河ムセイは、なぜか1人で電波変換できない・・・そしてある電波体その名は「ウォーロック」の力を借りて電波変換する
そしてある所では謎の計画をする奴らがいた果たしてこの先の展開とは・・・？

プロローグ（前書き）

どうもレッドスターです。

俺の小説はなんと2本目！

まだ始まったばかりだけどどうかこの小説をよろしくおねがいします！

プロローグ

「昔々1人の少年と1体のウィザードがいました・・・

しかし少年は最初引きこもり少年は展望台へと向かいました、そのとき空を見ていた少年はある物がこつちに向かって落ちてきました、落ちてきたのは・・・宇宙人でした。

そしてここから少年の人生が変わり少年はその宇宙人と何度も世界を救いました・・・その少年の姿は青き戦士その名は・・・

ロククマン

政治「どうじゃ我が星河家の古き伝説の話は」

ムセイ「しらねえーよそんな昔話」

この少年「星河ムセイ」とにかく夜が嫌い

そしてこのじいさんは「星河政治ほしかわせいじ」とにかく星が好きで毎日のように夜に展望台に行く

ムセイ「じゃー俺はあいつらと遊びにいつてくるよ・・・じい」

政治「じいとはなんだじい様といわんかーっ！」

ムセイ「やだね」

そしてムセイは外に出て行った

政治「まったくあやつはいつからあんな悪い子になったのかのお・・・

」

裕子「まあまあ政治さん落ち着いて」

ばあさんの名前は「星河裕子ほしかわゆうこ」

夢「お母さんとうしたの？」

この人は「星河夢ほしかわゆめ」ムセイのお母さんである

政治「あやつめ・・・ぶつぶつ・・・」

夢「またムセイの奴なんかしたの？」

裕子「いいえ何も・・・」

そのころコダマ公園では・・・

ハクビ「おせえーぞムセイ」

この生意気な子は「白金ハクビ」大金持ちで月100000円のお小遣いを貰っている

アイリ「そうよ」

この女の子は「最小院アイリ」最小院家は皆メガネをかけているがなぜかアイリだけかけていないあと天才

ハヤト「まあまあいつものことだよ」

この子は「双葉ハヤト」クール&天才よくテストでアイリと競争している

ムセイ「んで何すんの」

ハヤト「やつぱり電波変換しよう」

「電波変換」とは電波体と合体することで出来るが今の時代は誰でも電波体なしで電波変換できる

ハクビ「見てあどろけよー」

「電波変換」

キイイン

ムセイ「・・・」

???『ムセイはしないのか?』

ムセイ「やるぞウォーロック」

ウォーロック『おう』

ムセイ「電波変換!」

キイイイン

その姿はまるで青きヒーロー・・・ロックマン!

第1話 それぞれの電波変換（前書き）

どうもレッドスターです・・・つかれた・・・

第1話 それぞれの電波変換

ポイズン「どうだこの姿かつこいいだろ」

ポイズンは、ハクビの電波変換した名前、技は相手をしびれさせる「ポイズンボール」

シャイン「別にかつこよくないけど・・・」

シャインは、アイリの電波変換した名前、技は味方を回復させる「ライトシャイン」

ブレイド「まあ・・・いいんじゃない？」

ブレイドは、ハヤトの電波変換した名前、技は相手を切る「風切り」
ロックマン「んで何すんの結局」

ロックマンは、ムセイの電波変換した名前、技は相手を撃つ「ロックバスター」

ポイズン「バトル」

ロックマン「いいぜやろう2対2でな」

ブレイド「じゃあロックマンチーム組もう」

ロックマン「いいぜ」

ポイズン「こっちは、シャイン」

シャイン「いくわよ」

そしてバトルがはじまった・・・

ロックマン「ブレイド」

ブレイド「ああっ・・・風切り！」

剣に風がまとった

ポイズン「くっ・・・毒霧」

プシューー

ブレイド「しまった見え・・・」

「ポイズンボール」

ドオン

バチィイ

ブレイド「ぐああ」

どさっ

そして毒霧が晴れた・・・

ポイズン「どうしたこんなていどか？」

ブレイド「フフ・・・油断は禁物だ」

ポイズン「？」

シャイン「ポイズン後ろ！」

ポイズン「！」

ロックマン「もらったー！ロックバスターー！」
ドュン

シャイン「いただきー」

ポイズン「やるな・・・ロックマン！」

第1話 それぞれの電波変換（後書き）

中途半端なんですがまた次回で・・・

第2話 ムセイ（前書き）

どうもレッドスターです。

今日は暑いですね・・・（汗）

第2話 ムセイ

ロックマン「ふっははは来るがよい紫やろう」

ポイズン「調子にのるな！」

ポイズンは毒の塊を造りその塊を剣にした

ロックマン「（便利だなあの毒）」

ポイズン「くらえーポイズンソード」

ロックマン「へっロックバスター」

デューン！

キン！

ロックマン「あれ？」

ズバー

ロックマン「ギヤース」

ドサッ

ロックマン「痛い・・・（それに体がしびれる）」

そしてバトルは約7分22秒で終わった・・・

ムセイ「負けた・・・」

ハクビ「勝ったぞー！」

アイリ「ムセイ・・・カッコ悪・・・」

ムセイ「アイリ・・・なんか言ったか？」

ハヤト「まあまあ次は勝とうよ・・・ね？」

ハクビ「・・・にしても本当に何回も世界を救ったロックマンの力

かお前？」

ムセイ「しらねえーよ」

ハクビ「それにウィザードなんて古い古い」

ウォーロック『なんか言ったか白髪』

ハクビ「おい、ウォーロックなんか言った？」

ウォーロック『べつに』

ハクビ「そうなんだ」

ウォーロックとハクビは仲が凄く悪いです（笑）

アイリ「でもさあどうする？次は何して遊ぶの？」

ムセイ「バトル！」

アイリ「やだ」

はつきりと断られてがっかりしたムセイ

そのころ・・・

???1「ロックマン・・・か、あの伝説のヒーロー」

???2「おもしろくなってきたね」

???1「ああっ」

第2話 ムセイ（後書き）

次回、謎の2人組の謎に迫る！

第3話 謎の2人組み（前書き）

ふいーなんか疲れた・・・

第3話 謎の2人組み

そして・・・6時半になった

ムセイ「またなー」

アイリ「じゃあねえー」

ハヤト「うんまたね」

ハクビ「ふはははまた会おう!」

そしてそれぞれ家に帰っていった

ムセイ「ただいまー」

夢「コラ!ムセイ、6時はとっくに過ぎているわよ!」

星河家のルールその? 子供は6時までに家に帰ること! (旅行や出かけてることはふくまない)

ムセイ「(すっかり忘れていた・・・てかそのルールいらなくない?)」

夢「ガミガミガミガミ!」

ムセイ「(母さん・・・いつもより多めに怒ってるよ)」

裕子「ご飯よー」

夢「はーいお母さん、ムセイ手洗ってきなさい!」

ムセイ「へいへい・・・」

すると玄関から音がした・・・

ガチャ

夢「あつ、あなたお帰り」

銀「ただいま、夢」

この男はムセイの父親で名前は「ほしかわぎん星河銀」働き者

ムセイ「とうさん」

銀「どうした?また夢にしかられたか?」

ムセイ「大正解！」

銀「やつぱり」

夢「ほらさつさと手洗いなさい！」

ムセイ「はい」

ピンポン

夢「誰かしら？」

夢は扉を開けた・・・

ジャー

バシャバシャ

キュ

ムセイ「はい、手洗い完了！」

夢「ムセイイ、客よ」

ムセイ「客？」

そしてムセイは玄関に行った

ムセイ「はい・・・」

???1「こんな夜遅くにごめんなさい」

???2「こんにちわ」

ムセイ「あの・・・どちら様？」

第3話 謎の2人組み（後書き）

次回は2人の謎？がたぶん分かる！

第4話 真一と真二（前書き）

今回の話はロックマンの力を・・・

第4話 真一と真二

ムセイ「あの・・・どちら様？」

真一「申し送れました私は真一」

真二「僕は真二」

ムセイ「んでなんのようですか？」

真一「はい実はこの星河家にロックマンになれる人がいると・・・」

ムセイ「俺だ」

真一「あなただったの？」

真二「まぬけ頭みたいなの？」

ムセイ「（しばくぞコラア）」

真一「なら話は早い・・・」

ムセイ「ところでなんで俺に用あるんですか？（初対面どうしなのに）」

真一「はい、実は最近新型のウイルスが出てきたんですよ」

ムセイ「ウイルスって・・・病気とかの？」

真一「いいえ電波空間の」

ムセイ「ふーん」

真一「その新型のウイルスはとても強くて一般電波人が戦っても勝てる確率はほぼ0に近いんです」

ムセイ「そんなに強いのか？」

真一「そうなんです、サテラポリスの人でも勝てる確率はありますが勝てる確率が40%ぐらいなのです」

ムセイ「・・・あのさあたしかにロックマンになってウェーブロードとかにのってそのウイルスにあうかもしれないけどさあロックマンとか関係なくない？」

真一「はい・・・この話はね」

ムセイ「この話？」

真二「まだ話があるんだよー」

ムセイ「（なんだろこの感じ・・・真一はいいとして何故か真二のしゃべり方はむかつくのはなぜだろう？）」

真二「でねーもう一つの話がーロックマンにーそれかーウォーロックにー関係ーあるんだよー」

ムセイ「（むかつく！このしゃべり方むかつく！今すぐにしばきたい！）」

ウォーロック「（俺に関係あることねえ）」

ムセイはむかつきを我慢し答えた

ムセイ「あの・・・もう一つの話とは？」

真一「落ち着いて聞いてくれよ・・・」

ムセイ「！」

ムセイと真一の間緊張がはしる

ムセイ「（なんかとんでもない話でもでるのかな？）」

ウォーロック「（・・・）」

真一は顔を変え言った・・・

真一「君のロックマンの力・・・売ってくれないか？」

ムセイ「・・・えっ！？」

第4話 真一と真二（後書き）

ロックマンの力を売ってくださいだとおゝ次回どうなるのか？

第5話 力を売ってくれ・・・（前書き）

どうもレッドスターです・・・
なんかこの小説の展開がわからんな・・・

第5話 力を売ってくれ・・・

真一「君のロックマンの力・・・売ってくれないか？」

ムセイ「・・・えっ!？」

ムセイは、目の色を変えて言った

ムセイ「だめですこいつは俺の友達だ!」

真一「じゃあこれならどうですか？」

真二は大きな箱を持ってきた

そこには・・・

真一「全部で10億円あります、これではだめですか？」

ウォーロック「ムセイ・・・」

ムセイ「・・・」

ウォーロック「・・・」

ムセイ「うん・・・」

ウォーロック「(考えてる!?)」

ムセイ「・・・わるい事いますか・・・」

ウォーロック「(ムセイ・・・やっぱり俺の友・・・)」

ムセイ「本当に全部この金もらっていいんですか？」

真一「はい」

ウォーロック「(俺より・・・金を取るのか・・・)」

そして・・・

真一「では」

真二「バイバイ」

ウォーロック「はーなーせー」

ムセイ「・・・」

ウォーロック「ムセイイ助けてくれ・・・」

ムセイ「・・・」

ウォーロック「？」

ムセイ「バイバイウォーロック」

ウォーロック「ちょ．．．おまつえ．．．」

そしてウォーロックは2人に連れて行かれました

ムセイ「さーて飯だべよ．．．」

バチン

ムセイ「ブツ！」

バタツ

ムセイ「いてててなにすんだよ母さ．．．」

夢「見たわよ．．．あんたウォーロックをうつたわよね？」

ムセイ「え」と．．．はい．．．」

夢「何してんの！？ウォーロックは代々の宝ものなのよ！」

ムセイ「で、でも．．．10億円あるし．．．」

夢「お金があってもウォーロックは買えないのよ！分かってる？」

ムセイ「で、でもさあ．．．」

夢「出ていきな家こゝろからウォーロックを連れ帰すまでは！」

バタン！

ムセイ「．．．なんだよ．．．」

第5話 力を売ってくれ・・・（後書き）

ムセイ・・・なんでウォーロックを売っちゃうの！？
次回から物語が動く！・・・かも

第6話 ウォーロックを取り戻せ！（前書き）

どうもレッドスターです。

前回は大変なことに・・・果たしてウォーロックの運命とは！？

第6話 ウォーロックを取り戻せ！

ムセイ「なんだよ！なんだよっ！星河家ってなんだよ！！」

???「何かなやんでいるのかい？ボーイ」

そこにはダンディーな人がいた、しかし・・・

ムセイ「うるせーよみあげのおっさん！」

すると・・・

ガアアアン

???「もみあげのおっさんか・・・しくしく・・・」

髪の毛を直していた

ムセイ「（なぜ泣く・・・そして何故髪を直している・・・）」

???「まあ全然・・・ぐずっ、気にしてない、ぐずっ、から・・・

」

ムセイ「（気にしてるな・・・）」

???「ところでボーイどうしたのかい？」

ムセイ「（おっさんが話しかけたんじゃねえーか！）別に・・・」

???「えーっ？さっき「星河家ってなんだよ！！」とか言ってた

くせに」

ムセイ「（このおっさん、聞いていたのか！）」

???「まさか君・・・あの伝説の孫かな？」

ムセイ「（するどい！）」

???「ねえねえ、見せて！ロックマン！」

ムセイ「ごめん、今無理だから・・・」

???「へ？」

ムセイ「なあ、2人組みの奴知らない？」

???「ああつ、それならこの道に行ったよ！」

ムセイ「サンキュー！」

ムセイは走って教えてもらった道を行った

???「・・・星河か・・・」

コダマロード

コダマロードとはコダマタウンのもっともまっすぐで長い道のことなのだ！

ムセイ「うわぁー長い・・・」

ムセイは走ってこの道に入った

ムセイ「たしかここって8時になったら・・・」

パアアアアアアア

突然に道から光が出てきた

実はコダマロードのいいところは、8時になるとまっすぐな光が出てくるのだ！

ムセイ「チッ（今の俺は気分悪いのに・・・やけにこの光がきれいでムカつく・・・）」

そしてしばらくすると・・・

ムセイ「あっ、人が見える・・・しかも2人！あの人だ！」

真一「ん？人の声が・・・」

ムセイ「まあああああてええええええええええ」

ムセイは恐ろしい顔でこちらに近づいてきた

真一「ぎゃああああ」

数分後・・・

真一「そうだったのか・・・」

ムセイ「はい・・・」

真一「しかし君は・・・」

ムセイ「すみません親に聞かずに売っちゃいました」

真一「そうかい・・・じゃあ返すよ」

ムセイ「ありがうございまーす（これでご飯くえる）」

ウォーロツク『テームセイ！よくも俺をー』

真一「よかったね・・・でも・・・」

ガシッ

ムセイ「えっ・・・」

後ろから誰かに掴まれた！

真二「つかまえーた」

ムセイ「なんだよ・・・はなせー！」

チャカ

ムセイ「えっ・・・マジで？」

ムセイの頭に銃をおしつけた

真一「返した代わりに・・・君を消すよ・・・」

ムセイ「・・・（ウッソーン）」

第6話 ウォーロックを取り戻せ！（後書き）

真一と真二は・・・敵！だったー！

次回どうなるのか？ムセイの命とはー！っ！？

第7話 騙し・・・（前書き）

どうもレッドスターです。

今日はいいい日だ・・・？

第7話 騙し・・・

ムセイ「・・・」

真二「それにしてもこのワイザードは高く売れるからねえ」

真一「おまえ気づいてないからおしえてやる・・・お前に渡した金は偽もんさ」

ムセイ「な・・・に」

真二「真一やろうよ」

真一「そうだな・・・」

真二「電波変換」

真一「電波変換」

キイイン

シャーワン「シャーワン！」

シャーツ「シャーツ」

ムセイ「（なんか姿はいいけど名前がね・・・）」

シャーワン「さあおとなしく渡せ」

ムセイ「やだよ！」

ウォーロック『（ムセイ・・・お前・・・）』

ムセイ「お前達に渡したら飯が食べられねえだうが！」

ウォーロック『（それか・・・）』

シャーワン「そうか・・・なんなら力づくで奪う！」

ムセイ「・・・まじで？」

シャーワン「くらえシャーソード！」

シャーツ「シャーバスター！」

ムセイ「・・・ウソーン・・・」

ウォーロック『電波変換だ！』

ムセイ「いや、ここは・・・」

ウォーロック『なんかさくせんでもあるのかよ』

ムセイ「逃げる！」

第7話 騙し・・・（後書き）

次回バトル！

第8話 シャーワンとシャツ

ロックマン「うおおーっ ロックバスター！」

デュン デュン

シャーワンはロックバスターをよけた

シャーワン「遅いぜ！」

ロックマン「なっ・・・」

シャーワン「くらえ、シャーブレイク！」

ズバン

ロックマン「ぐあーっ」

ドサッ

シャーワン「ロックマン・・・たいしたことねえな」

ロックマン「このお・・・まけねえぞ」

ウォーロック「だがいまピンチだぞ」

ロックマン「うるせえ！ロックバスター！」

デュン

シャーツ「シャーク砲！」

ドオン

ロックマン「ゲッ、また変なのきた！」

シャーツ「変なのじゃない！」

ロックマン「（否定すんなよ・・・）」

シャーツ「もうおこったーっ 連続シャーク砲！」

ドドドドドドドオン

ロックマン「増えたあーっ!？」

シャーツ「ふはははっやれやれー」

ロックマン「しょうがない・・・チャージロックバスター」

キイインデュン！

バン

ロックマン「・・・チャージして1個だけ壊せるけどまだたくさん

あるね・・・」

ウォーロック『落ち着いてる場合か!』

シャーツ「そうだよー」

ロックマン「(まったく・・・どうすれば・・・)」

シャーツ「ロックマンの伝説もここで終わりだー」

ロックマン「俺は・・・まけねえええ」

???「まったくみてらんねえな」

ロックマン「あーっ!もみあげのおっさん!」

???「もみあげって言わないで」

ロックマン「・・・ってかサメ?みたいのがこっちに近づいてくるんだけど・・・」

???「あつ、本当だ」

ウォーロック『(なんでこいつらこんなに落ち着いてられるのか?)』

???「しょうがないな、私に任せなさい」

ロックマン「えっ!?おっさんが?」

???「行くぞ電波変換!」

キイーン

ゴルドマスター「ゴルドマスター」

ロックマン「(ゴルドマスター!?!?)」

第8話 シャーワソとシャーツ（後書き）

ゴールドマスター参上！次回もバトル！

第9話 ゴールドマスター（前書き）

果たしてゴールドマスターの実力とは・・・？

第9話 ゴールドマスター

ゴールドマスター「ゴールドマスター」

ロックマン「（ゴールドマスター！！？）」

ウォーロック「（うわ、ゴールドマスターか・・・体金ぴかだぜ・・・）」

ゴールドマスター「私の实力を見なさい！」

サメ？みたいなのがゴールドマスターに近づく！

ゴールドマスター「くらいなさい！金色の風！」

すると金？の風がサメ？の周りに吹いた

ゴールドマスター「まだまだですよ金の炎！」
ゴールドファイアー

ポオオオオオオ

そして・・・

ゴールドマスター「閉めはこれです・・・金の木の葉！」

さらに金の炎に入っていったすると・・・

ポオオオオオオウウウウウウンン

炎の火力がいつきに上がった

さらにサメ？見たいな物も消えてなくなった・・・

シャーツ「何いいい」

シャーン「あわてるなシャーツ・・・」

ゴールドマスター「いいやあわてるのはお前だ！」

今のゴールドマスターの目つきは鋭くそして怖かった・・・

ゴールドマスター「終わりですゴールドナックル！」

ズドオオオオオン

シャーン「ぐあおおおおお」

ロックマン「うわあ、なんだ！？くそ・・・煙のせいでみえねえ」

ウォーロック「なんだ・・・1つの電波の力が消えていく！」

ロックマン「ウォーロックってそんなことわかるんだ・・・」

ウォーロック『そうだけど・・・何か？』

ロックマン「別に・・・」

ゴルドマスター「いやー終わった終わった」

ロックマン「おっさん！」

ゴルドマスター「おっ、煙が消えていくぞ」

ロックマンは煙が消えるのをじっと見た・・・

そして煙が消え空を見た・・・

ロックマンが見た光景それは、無限の星の数だった・・・

ロックマンは初めて星がこんなにきれいだというのを知った・・・

ロックマン「（・・・なんでだろ、俺、星好きじゃないのになのになんだかずっと見たい気分だ・・・）」

するとロックマンは隣を見た

ロックマン「あれ？おっさんは？」

ウォーロック『どっか行つたぞ』

ロックマン「そうか・・・」

ロックマンは静かにここから居なくなつた・・・

第9話 ゴールドマスター（後書き）

ゴールドマスター強っ！めっちゃ強いな〜しかしゴールドマスターにはまだまだ

謎ばかり・・・？

第10話 コダマ第二小学校

キンコンカンコンコン

コダマ第二小学校

そして5年5組の教室では・・・

裏星「皆さん！今年2300年はとてもめでたいのですよ！だから皆さんでお楽しみかいをやりましょう！」

裏星は5年5組の中で一番のしきり上手うまじ
わーいわーいわーい

ムセイ「（だるいなあ）」

アイリ「でもお楽しみかいで何するんですかあ？」

裏星「フフフよく聞いてくれましたね・・・それはー」

ムセイ「（早くしてえ・・・ふあ）」

裏星「2300回飛びの大縄です！」

・・・シーーーーン

裏星「・・・あれ？」

ムセイ「あー」

裏星「なんだいムセイ君」

ムセイ「あの・・・なんでめでたい年でわざわざ大縄しないといけねえーの？」

裏星「何言っているのです！大縄で2300回飛び終えた時の血と汗と涙そしてそのあとの感動！すばらしいではないかあ！」

ムセイ「涙はいいけど血と汗をだすのはちょっと・・・」

裏星「何を言っているのですか！あなたは分からないのですか？その頑張り終えた感動を！」

ムセイ「グウ」

裏星「寝るなあ！」

アイリ「はははは」

クラスの皆「あははははははははは」

ムセイ「グピー」

裏星「おーきーろおー」

大知「・・・・・・・・ケツ」

そして放課後・・・

ムセイ「あゝよく寝た」

アイリ「寝すぎよ！」

ハヤト「ムセイ寝たんだ・・・」

ハクビ「俺も寝たぜ！」

ハヤト「僕とハクビは、5年2組だけど・・・ハクビが本当に面白いんだよ」

ハクビ「おもしろい？面白くねえーよあの先生・・・俺の顔に落書きを・・・」

ムセイ「ハクビ・・・耳の裏にまだ残ってるぜ」

ハクビ「マジで？なあハヤト消してくれ！」

ムセイ「なあ面白い事教えてやる」

ハクビ「なんだよ」

ムセイ「お前の耳の裏に「バカ」って書いてあるぞ」

ハクビ「・・・本当か？ハヤト」

ハヤト「うん」

ハクビ「あの先生めええええええ」

ハヤト「にしてもムセイ、眠そうな顔してるよ」

ムセイ「いやいやちよつと昨日・・・（言えない！昨日じじいに夜の2時までしかられた事絶対に言えない！）」

ハヤト「ちよつと？」

ムセイ「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

・・・神様に祈ってた・・・夜の2時まで・・・・・・・・・・」

ハヤト「へえー」

ムセイ「（ツツコめよ！）」

そして

ムセイ「またなあー」

ハヤト「うん」

アイリ「また明日ねー」

ハクビ「じゃあな」

ムセイ「・・・よし！寝るか」

ウォーロック『まだ寝るのかよ！』

ムセイ「ただいま・・・」

裕子「おかえり」

ムセイ「ばあちゃん俺をベットまで・・・ガクッ」

裕子「はいはい」

今日のムセイは寝てばっかでした・・・

第10話 コタマ第二小学校（後書き）

次回も平和・・・？

第11話 お楽しみ会の準備

コダマ第二小学校

5年5組では・・・

裏星「さぁお楽しみ会は来週ですよ!」

ムセイ「んで結局何にしたんだやるもの」

裏星「・・・・・・サッカーです」

ワーーーーー

クラスの男達は大喜びした

ムセイ「サッカーか・・・・それならやるか」

裏星「皆よかったね・・・・（2300回飛びの大縄がやりたかった・
・トホホ・・・・）」

ムセイ「あれ?そいえばサッカーだけか?やるもんって」

裏星「いいえあとやるものを2つきめます!」

アイリ「あの〜」

裏星「なにかな?アイリさん」

アイリ「女子の私たちはあんまりサッカーを好みませんどうすればいいですか?」

裏星「ふははそう来ると思っていましたよ」

ムセイ「（思っていたのかよ!）」

裏星「そう、サッカーをやりたくなかったらマネージャーになってもらいます!」

アイリ「マネージャーならいけど・・・」

裏星「決定だなでは早速あとの2つは何するかきめていこう、なにかやりたい事がある人は手を挙げてください」

ムセイ「はい」

ムセイは手をあげた

裏星「はいムセイ君」

ムセイ「電波人間対決ってのは?」

裏星「あぶないから却下！」

ムセイの意見は一瞬にして却下された・・・

しかしなかなかクラスの人手は手を挙げなかった

すると裏星が必殺の言葉を言った・・・

それは！

裏星「このまま意見がなかったら2300回飛び大縄にするぞ」

すると一瞬にしてクラスのほとんどの人が手をあげたのだった

裏星「・・・（どれだけ大縄したくないんだろこのクラス・・・）」

そして・・・

時間が過ぎて・・・

裏星「それではお楽しみ会やることは「サッカー」「ビンゴ」「イス取りゲーム」です準備は明日からです

それではまた明日！」

キンコーンカーンコーン

そして放課後

ハクビ「なあそっちのお楽しみ会何すんだ？」

ムセイ「あれ？ハクビのほうもお楽しみ会すんの？」

ハクビ「そうだけど・・・んでさっきの質問にこたえろ！」

ムセイ「え」と「サッカー」と「ビンゴ」と「イス取りゲーム」だ

ハクビ「そうか・・・こっちは「組み体操」と「電波対決」と「王

様ゲーム」だ！」

ムセイ「・・・（なぜ王様ゲーム？）」

ハヤト「でもいいよねムセイのクラス」

アイリ「なんで？」

ハヤト「普通だから」

ムセイ「まあな」

ハクビ「お楽しみ会は来週か・・・」

ムセイ「おっともう家だ、またな」

ハヤト「また明日」

アイリ「バイバイ」

ハクビ「じゃあな」

そしてムセイは家に入っていた・・・

ムセイ「・・・いいなあ電波対決・・・」

そして早すぎる来週・・・お楽しみ会の時がやって来ました・・・

第11話 お楽しみ会の準備（後書き）

次回、お楽しみ会でまさかの・・・？

第12話 楽しい？お楽しみ会！

裏星「さあ——今日はお楽しみ会だああ——皆楽しみましよ——
——う——!!!!」

ムセイ「（裏星のやつ・・・. っただけお楽しみ会を楽しみにしてたんだ？ っすげえハイテンションじゃん）」

そしてお楽しみ会が始まった・・・

裏星「まず最初は……「サッカー」をやりましょ……」

ザアアアアア
――――

ムセイ「急に雨が降ってきたよー」

そしてお楽しみ会で約1分で「サッカー」が終わった・・・

裏星「……まだ……2つ残っているではないか……」

山田「あのおく裏星君……」

この男は「山田太郎」ごく普通の人である（でも電波変換はできる）
やまだたろう

裏星「何かね？山田くん……」

山田「それが・・・ビンゴの紙を忘れちゃって」

裏星「……そうか……。なら他の白い紙で作ろうビンゴの紙を……」

•
L

美津「あの……」

この女は「美津光子」である・・・この子も普通である（電波変換はできるけどね！）

裏星「何かね！？美津さあん！」

美津「今日は授業がないからノートとか持ってきてないの、それに学校にあった紙は昨日いらなから捨てたんだって・・・」

裏星「………まだ……まだ終わってなああああ
ああい！！！！！！」

そしてもう最期のゲームが始まった……

「イス取りゲーム」

チャンチャンチャ・・・

バア

皆はイスに座ったしかし・・・

10分後・・・

裏星「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ムセイ「・・・・（やべえ裏星の奴めっちゃ落ち込んでる！）
すると何かの音がこつちに迫っていた

ゴゴゴゴゴゴゴ

ムセイ「？」

そのとき

ドツカアーーーーー

急に教室が破壊された

ムセイ「こ、これは・・・・・・・・」

ポイズン「逃げんなよ！」

ワーム「ヒイーーーー助けて」

ワームはある男の子が電波変換した姿

ポイズン「ふはは、くらえ！ポイズンボール！」

ワーム「ヒイーーーー」

ドオオン

その日学校は3分の1破壊された

さらに裏星は落ち込んでしばらく学校に来ませんでした・・・

さらにさらに学校は3分の1破壊されたがハクビの金ですぐに学校
が直った・・・（しかし破壊されたところは何か前より豪華になっ
ていた・・・）

第12話 楽しい？お楽しみ会！（後書き）

次回平和が・・・終わる？・・・かも・・・

第13話 電波空間平和管理局！

ムセイ「はぁ・・・」

ウォーロック『どうしたムセイ？』

ムセイ「今日かぁ・・・」

ウォーロック『今日ってなんかあったか？』

ムセイ「お前だって知ってるだろ？」

ウォーロック『だから何なんだよ！』

ムセイ「電波空間平和管理局軍団だ・・・」
でんぱくうかんへいわかんりぐんだん

ウォーロック『・・・（思い出した・・・）』

ムセイ「よしっ！寝よう！寝れば何とかなるかも・・・」
夢「来たわよ！」

ムセイ「寝る間もなかったか・・・トホホ・・・」

そして・・・

???「あつまれえーーーーーい」

コダマタウンに笛の音が響きわたる

ピーーーーーーッ

ムセイ「（くそっ・・・なんで毎月来るんだ？こいつら・・・）」

五黄「よーし整列！」

この男は「切目五黄」きりめいごう 毎月このコダマタウンに来ている子供達を集めて毎月訓練をさせている

子供達は皆整列した

五黄「みなの方、今月もやるぞおーーーー」

子供達は皆黙っていた

五黄「その前に！話したいことがある！この世の中は最近恐ろしい事件が怒っているそれにウイルスだって進化している！そしてこの世界を守るのは今の子供達君たちだぁ！君たちが未来のことを守る「希望」なのだ、だから皆強くなってこの世界を守ろう！」

ムセイ「（・・・）」

そして訓練が始まってしまった・・・

五黄「さあ皆電波変換をさっさとしろ！」

子供達「・・・・・・・・」

キイイイイン

そして・・・

五黄「まずはこの最新人間電波体に一発攻撃をあてろ！」

「人間電波体」とは・・・

この人間電波体は人間の手によって作られた人間型の電波体である・
・

通常の人間電波体は攻撃とかはしないが最新のは新種のウイルスと
かを倒すために攻撃型の人間電波体である・・・

五黄「まずは・・・ハクビ！」

ポイズン「おうよ！」

五黄「始めッ！」

ポイズン「くらえポイズンボール！」

毒の玉が人間電波体にあたった・・・

ポイズン「よっしゃ！」

五黄「まだまだ」

ポイズン「！」

人間電波体は透明のシールドを作っていた・・・

ポイズン「なああああくそつ毒霧！」

毒の霧が人間電波体を包んだ

ポイズン「さらにポイズンソード！」

五黄「なめるなよガキイ！最新のロボットをなめるなあ」

ガキイイン

ポイズン「・・・かはっ・・・」

人間電波体は鉄の棒を出しポイズンの腹に突いた

ドサッ

ムセイ「ハクビ！」

五黄「だらしねえな．．．はいハクビは失格．．．次だ！」

ポイズンは変身をといた

キン

ハクビ「．．．．．」

ハクビは気絶していた．．．

アイリ「ハクビ！」

ハヤト「ハクビ！」

ハクビ「．．．．．」

ウォーロック「あいかわらずヒデエやろつだ、五黄．．．」

ムセイ「（なんで．．．．．そこまで強くならなくちゃいけないんだ．

．．．）」

第13話 電波空間平和管理軍団！（後書き）

次回も五黄によるひどい訓練が続く・・・

第14話 五黄の地獄の訓練

五黄「次はアイリ！」

アイリ「……………」

ハヤト「きよつけてね……………」

五黄「さあはじめ！」

アイリ「電波変換！」

キイイン

シャイン「いくわよシャインカッター！」

シャー

しかしあっさりとよけられた

シャイン「えっ！？どこ……………」

ドゴツ

シャイン「あうっ！」

人間電波体はパンチをしたさらに……………」

ドンッ

シャイン「キャッ……………」

人間電波体は鉄の棒でシャインを叩いた

ドサッ

シャインは倒れた……………」

ムセイ「アイリ！」

キイン

変身がとけた……………」

アイリ「……………痛い……………」

アイリの頭から少し血が出ていた……………」

五黄「だーらしないなー女だからって弱いままじゃいかねえんだよ」

ムセイ「……………」

五黄「次は……………」

ムセイ「俺にやらせろ！」

五黄「……………いいだろ」

そして人間電波体対ロックマンの対決が始まった……

ロックマン「……………行くぞ!」

五黄「やれえ人間電波体!」

ロックマン「ロックバスター!」

デュン

しかし人間電波体は、よけていた

ロックマン「……………そこかあ」

デュン

キン!

しかしロックバスターは防がれた

ロックマン「(やべえ……あの人間電波体強い……)」

ウォーロック『ムセイ上だ!』

ロックマン「!」

ドオン

ロックマン「ぐはっ」

ロックマンは鉄の棒で叩かれた

ドサッ

ロックマン「(くそお……五黄のやろう……)」

五黄「どうした?お前もその程度か?なにが伝説のロックマンだ……

・もう伝説でもなんでもねえな!」

ロックマン「黙れ!」

五黄「!?!」

ロックマン「(何だろ……たしかに伝説とかどうでもいい、でも

でも……)負けらなねえ……」

五黄「……………」

ロックマン「ぜってーに負けねえ!」

第14話 五黄の地獄の訓練（後書き）

次回五黄にぶちきれ！・・・かも。

第15話 ムセイの底力！（前書き）

しばらくお休みしてすいません（涙）

色々ネタを考えていましたがなかなか納得しなくてずっと考えていました。

たぶんこれからは一週間に2・3回は掲載できると思いますのでよろしく願います！

あと忘れている人のためら今までの話を一から説明します←

「時は2300年伝説のヒーローロックマンが現れて約100年・・
・時代は進歩し、人々は自分自身で電波変換できるようになってい
た・・・が主人公の星河ムセイはなぜか自分自身で電波変換できな
かった、そのため100年前の伝説のヒーローウイザードといた宇宙人ウォー
ロックの力を借りて電波変換が出来る！しかし時にムセイは、ウォ
ーロックを売ろうとし一度裏切ってしまったが、ムセイはウォーロ
ック取り戻したのであった、そして今、電波空間平和管理軍団と言
う軍団がコダマタウンに来ていたその軍団は子供達を強くするため
に苦しい訓練をさせている、そしてその軍団のリーダー・・・切目きりめ
五黄ごおうは、何のためらいもなく子供達を苦しい訓練をさせていた・・・

←

とここまですが今までののはなしですな・・・ではどうぞ！←

第15話 ムセイの底力！

ロックマン「……………うおおお！」

デュン！

キン！

五黄「どうした？負けてらんねえんだろ？だったら見せてみるよ！

ロックマンの……………伝説の力を！」

ドガッ

ロックマン「ぐあああああっ！」

ドサッ

ロックマンは思いつきりぶっ飛ばされていた

ロックマン「はあはあ……………（くそっ！あの人間電波体、すぎがねえ……………）」

ウォーロック『来るぞ！』

ロックマン「！」

ザッザッザッ

人間電波体は少しずつ近づいていた……………

ロックマンはたった……………

ロックマン「はあはあ、ロックバスター！」

デュン！

キン！

ロックマン「くそっ！一発一発の攻撃が遅くて防がれる！」

ウォーロック『お前が強ければもっと攻撃速度があがるんだがな』

ロックマン「うるせえ！」

ウォーロック『（まさかあのムセイがこれほどまでマジになるとは……………もしかしたら……………）』

その時相手の速度が上がった！

さらに相手は二本の鉄の棒を出しロックマンに襲い掛かった

そして……………

ガガッガッ！

ロックマンはおもいつきり頭をなぐられてしまった・・・

ロックマン「ぐあああああつぐうう・・・」

ドサッ・・・

ウォーロック『ムセイ！』

ハヤト「ムセイ！」

ロックマン「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

（なんだか眠くなってきた・・・あれ？俺って何してたんだっけ？思い出せない・・・もういいかも限界だ・・・寝よう――

）

「セ・・・・・・・・ム・・・・・・・・イ！・・・・」

（誰だ？）

「ム・・・・・・・・イ・・・・・・・・ムセ・・・・・・・・イ・・・・・・・・ムセイ！」

（・・・・・・・・この声・・・・・・・・ハヤト？・・・・・・・・！・・・・・・・・そうだ俺、戦ってたんだ！）

五黄「ハハハハこれまでのようだな！残念だな！伝説のヒーローだ？負けてらんねえだ？そう言っただけ今の状況だ！さっき言っただけお前の言葉を思い出すと笑えて涙ながすぜ！」

ロックマン「・・・・・・・・」

五黄「お前もさっきの奴と同じ！弱い奴は弱い！そう！ザコなんだよ！」

ロックマン「…………だ……まれ……」

五黄「!？」

ロックマンは頭を抱えながら少しずつたっていく……

ロックマン「はあはあ……笑いたきや笑えばいい……涙流すなら流せばいい……だがな! 仲間の悪口はどんなにバカにされても殴られても頭が割れようと! 仲間の……ブラザーの悪口をする奴は誰だろうと! ぶん殴って骨を折ってやる!」

五黄「ハハハやってみるよ……人間電波体を倒しおわったらな!」

人間電波体は襲い掛かってきた……が

ロックマン「じゃまだ……どけよ……どかなかったら……」

ドギユウウン

五黄「……何っ……」

人間電波体はロックマンの一撃により破壊された

ボオオオン

五黄「嘘だろ……?」

ロックマン「……次はお前だ!」

ウォーロック「! (なんだ? ムセイから何か邪気みたいなのを感じる……)」

ロックマンは少しずつ五黄に近づいていった……

そして……

ロックマン「倒したぞ……じゃあ……俺からの罰を受ける……!」

五黄「や……やめる……」

第15話 ムセイの底力！（後書き）

何かやばい展開っすね！

次回五黄はどうなってしまうのか！

第16話 倒れたムセイ・・・

五黄「や・・・やめろ・・・」

ザッザッザッザッ

ロククマンは一步一步五黄に近づいていた・・・

ロククマン「・・・」

五黄「やめろよ・・・嘘だろ？冗談だよな？」

ロククマン「・・・」

五黄「聞いているのか！？たのむやめてくれ！」

ロククマン「仲間の悪口は俺の受けた傷よりも深い・・・終わりだ

ロクク――」

アイリ「だ・・・め・・・」

ロククマン「！」

ハヤト「アイリが起きた！」

アイリ「ムセイ・・・だめよそんな事・・・したら・・・貴方・・・
悪者になっちゃうよ・・・」

ロククマン「！・・・俺は・・・」

アイリ「私は・・・ムセイに・・・そんな事・・・した所・・・見
たくない・・・」

ロククマン「・・・アイリ・・・ツ！」

ロククマンは頭を抱えた

ロククマン「ううう・・・ツ・・・」

ドサッ

ロククマンは倒れた・・・

アイリ「ムセイ・・・んっ！・・・」

アイリも気絶した・・・

ハヤト「アイリ！ムセイ！」

コダマ病院では・・・

夢「・・・ムセイどうしてこんな事に・・・」

政治「まったく・・・めんどうな事にしよつて!」

裕子「まあまあ政治さんきつとこの子はこの子なりの考えがあつたのですよ・・・」

政治「どうかね!」

ガラララッ

銀「ムセイが入院したつて!？」

夢「あなた・・・」

銀「まだ起きないのかムセイは!」

夢「ようなの・・・」

ムセイは眠り続けていた・・・

その頃違う病室では・・・

ハヤト「大丈夫?ハクビ」

ハクビ「見てのとおり・・・大丈夫じゃないつて!」

アイリ「私は大丈夫よ!」

ハクビ「アイリは女のくせに回復はやいな・・・だから見た目は女中身はおと——」

ゴチーン

ハクビ「アイリ・・・てめえ・・・俺は病人だぞ!」

アイリ「あゝら私だつて病人よ?」

ハヤト「2人ともこんなに元気だから平気だね!あとは・・・」

ハクビ「・・・そうだな・・・ムセイの奴まだ起きないみたいだし・・・」

アイリ「・・・ムセイはあの時顔してた・・・」

ハクビ「あの時？」

ハヤト「あ・・・ハクビは気絶してたから知らないんだね」

ハクビ「だから何っ!？」

アイリ「え・・・でもハクビに教えると絶対に・・・ねえ」

ハヤト「だねえ」

ハクビ「あ~~~~~~~~っ!だー!かー!らー!なんだよー!~~~~~!?!?!?」

その頃電波空間平和管理軍団は・・・

五黄「あの星河ムセイ・・・やばいな・・・」

???「まあいいじゃないですか・・・」

真一「けど・・・アイツはいずれ我々の・・・」

真二「真一!きつとあの方は考えがあるんだよ!」

真一「・・・」

五黄「考えがあるのか？」

???「・・・フツ」

今、ムセイに一つの危機が近づいていることをまだ・・・知らない・・・

第16話 倒れたムセイ・・・（後書き）

次回ムセイは目を覚ますのか！？

第17話 一つの記憶の中で・・・

「ねえお母さん」

「なあに？」

「僕、大きくなったら英雄になりたい！あの人のように！」

「そうね・・・きっとなれるわ、でもその前に・・・」

「その前に？」

「その前に・・・」

ムセイ「・・・んっ、あれ？ここどこだ？」

今は朝の4時だった・・・

ムセイ「・・・俺・・・たしか五黄のあの言葉を聞いた時・・・」

「お前もさっきの奴と同じ！弱い奴は弱い！そう！ザコなんだよ！」

ムセイ「五黄が俺の友達が悪口を言った後から俺・・・あれ？その後どうなったんだっただけ？ってかなんで俺ここにいるんだ？五黄は？皆は？」

ウォーロック『起きたか、ムセイ』

ムセイ「あつ、ウォーロック！俺さああの後どうなったんだ？」

ウォーロック『お前は・・・いいやねお前は、あの五黄を追い出してからも三日も寝ていたんだぞ？お前！』

ムセイ「まっさかー、この俺でも三日間も寝続けるなんて、ありえ

な．．．．．」

○月×○日

A M 4時06分

ムセイ「．．．．．ありえました．．．まじでか．．．俺が三日間も寝たのか、だがなんでだろう．．．こんなに寝たのにまだ眠いのは何故だろう．．．」

ウォーロック『ふう、にしても良かったな』

ムセイ「何が？」

ウォーロック『生きていてな』

ムセイ「うん本当だな．．．って、その意味どういう事？」

ウォーロック『言葉どおりだ』

ムセイ「．．．．．とにかくこんな所に居るのも退屈だ！外にでよ．．．．．うっ」

ムセイは頭を抱えた

ムセイ「~~~~、そうだった五黄のあの人間電波体に頭をやられたんだった．．．」

ウォーロック『あんまり無理すんなよ』

ムセイ「わかったよ！」

そしてムセイは．．．．．もう一度寝たのであった．．．

ウォーロック『よく寝るなムセイ．．．．．』

ムセイ「あれ？ここは？ウォーロックは？病室は？」

「???」ねえお母さん

「???」なあに？」

「???」僕、大きくなったら英雄になりたい！あの人のように！」

「???」そうね・・・きつとなれるわ、でもその前に・・・」

「???」その前に？」

「???」その前に・・・・・・」

ムセイ「！（これは・・・俺の小さい時の頃の・・・）」

「???」気に入ってもらえただろうか？ムセイ・・・」

ムセイ「！誰だ！おま・・・！」

ムセイは見てしまった・・・

そこには・・・

「???」クク・・・」

「自分」と同じ「顔」だった・・・

ムセイ「お前は・・・？」

ムセイ『俺の名は・・・「星河ムセイ」・・・』

ムセイ「！」

第17話 一つの記憶の中で・・・（後書き）

もう一人のムセイ・・・
次回どうなってしまうのか！？

第18話 もう一人のムセイ・・・

ムセイ「お前が・・・ムセイ？」

ムセイ『そうだ・・・俺はムセイ』

ムセイ「バカな事言うな！俺がムセイだ！それとお前は何者だ！」

ムセイ『俺はムセイ・・・正確に言ってもう一人のムセイだ・・・』

ムセイ「もう一人の・・・俺？」

ムセイ『そうお前はもう一つの』

ガバツ

ムセイ「はあはあ・・・夢？」

ウォーロツク『どうしたんだ？ムセイ』

ムセイ「いや、なんでもない・・・」

今の時間は、A M 9時12分

ムセイ「9時か・・・腹減ったな！」

ガラツ

ムセイ「ん？」

夢「・・・ムセイ？起きたの？」

ムセイ「母さん！」

夢「ムセイ、何もない？どこも痛くない？」

ムセイ「大丈夫だって！今のとおりピンピンしてるぜ、俺！」

ギユ
ムセイ「！」

夢「・・・・・・・・よかった・・・・」
ムセイ「・・・・・・・・母さん・・・・」
夢はムセイを強く抱きしめた・・・

そして数分後・・・

アイリ「おはようムセイ！やつと起きたのね！」

ハクビ「やつと起きたかねぼすけ！」

ムセイ「黙れハクビお前もねぼすけだろ！」

ハクビ「てめええ・・・・」

ハヤト「まあまあ、ムセイ元気かい？」

ムセイ「見てのとおり元気だぜ！」

ハヤト「そうかあ・・・・」

ハクビ「おい、ねぼすけ！」

ムセイ「何だ？ねぼすけ？」

ハクビ「お前が退院したら俺と勝負だねぼすけ」

ムセイ「おう！のぞむ所だねぼすけ・・・・」

アイリ「やめなさい、ねぼすけブラザーズ！」

ムセイ・ハクビ「誰かねぼすけブラザーズだあああああ！！！」

二人の息があつた・・・

アイリ「アハハ息が合ってる、さすがねぼすけブラザーズね！」

ハヤト「アハハハハ」

ハクビ「なつ、ハヤトも笑つたな~~~~っ？」

病室はにぎやかになった・・・

そして数日後とうとう・・・

ムセイは病院を退院した・・・

ムセイ「く~~~~やつと自由だあ~~~~」

ウォーロツク『そうだな・・・でも明日学校あるぞ？』

ムセイ「・・・・・・・・え？」

ウォーロツク『今日は日曜だからな！』

ムセイ「む・・・・・・・・無念・・・・・・・・」

ハクビ「おーいムセイ！」

ムセイ「あっ、そうだった」

ハクビ「よし退院したところで！」

ムセイ「勝負だ！」

第18話 もう一人のムセイ・・・（後書き）

次回ムセイVSハクビ！
勝つのはどっちだ！？

第19話 ムセイVSハクビ!

ムセイとハクビはコダマ公園へと向かった
今2人の戦いが始まる・・・

ムセイ「ははははどっちが本当の「ねぼすけ」か、今はつきりさせてやる!」

ハクビ「ハハハハハハハッ、勝負しなくても俺が勝つて決まってるんだよ!」

ムセイ「ほう・・・毎回学校で寝ていてよく先生に顔に落書きされる奴なんかに俺は負けねえよ!」

ハクビ「へえ、お前なんて一日15時間ぐらい寝ているくせによく言えるねえムセイ君」

ムセイ「いえいえ・・・」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

いつの間にか電波体対決がくちケンカになっていた・・・

アイリ「おーい、電波バトルはどうしたのよ?」

ムセイ「あつ、そうだった」

ハクビ「へっ、忘れるところだったぜ!」

アイリ「(なんてグタグタな展開なんだろ・・・)」

そして・・・

ムセイ「いくぜウオーロック!電波変換!」

ハクビ「電波変換!」

キイイイイイイイ

ロックマン「よし変身完了!」

ポイズン「いざ勝負!」

アイリ「それじゃー始めなよ」

ロックマン・ポイズン「バトルスタート!」

ロックマンは早速攻撃をした
デュン!

ポイズン「ポイズンシールド！」

ポイズンはロックマンの攻撃を防いだ！

ロックマン「チッ、やるなハクビ！」

ポイズン「違うぜ！今は、ポイズンだ！ポイズンボール！」

毒の玉がロックマンに向かっていく

ロックマン「あれに食らったらしびれてしばらく動けなくなっ

まう・・・だったら」

キューイン

ロックマン「チャージロックバスター！」

デュウウン

バシャン

ポイズンのポイズンボールが破裂した

ロックマン「へへっ（あぶねえ〜）」

ポイズン「チッ、さすがロックマン・・・だが！」

プシューー

ロックマン「これは・・・毒霧！」

ポイズン「さあ飲み込まれる・・・」

ロックマンは毒霧でまわりが見えなくなった・・・

ロックマン「やばい・・・くっ（この霧を吸ったらやばい・・・）」

ポイズン「すきだらけだな！ポイズンソード！」

ロックマン「！」

ズバアアアン

ロックマン「ぐあああああっ」

ドサッ

ロックマン「（くっ・・・体が・・・）」

ポイズン「ハハハ弱い弱い！」

ロックマン「このお〜・・・」

第19話 ムセイVSハクビ！（後書き）

まだ続くロックマンVSポイズン！
果たして勝つのはどっちだ！？

第20話 ポイズンVS・・・ウォーロック!? (前書き)

今日は友達とゲームしたり、カラオケ行ったりしました・・・楽しい一日でした明日はクリスマスかぁ・・・

第20話 ポイズンVS・・・ウォーロック！？

ポイズン「さあ〜てこれで決まるな・・・誰がねばすけかを・・・

」

ロックマン「へっ、体が動けなくなつて戦えるぜ！」

ポイズン「何っ、どうやって？」

ロックマン「それは・・・こうだ！ウォーロック！」

ウォーロック『何だ？ムセイ』

ロックマン「お前が戦え！」

ウォーロック『・・・俺？』

ポイズン「おい卑怯だぞ！そんなボロくそ時代遅れウィザードを使うなんてよ！」

ウォーロック『なんだとこらあ！この白髪のかげに！』

ポイズン「白髪とはなんだ！これは最初っからこんな色だったんだよ！」

ウォーロック『ほう・・・じゃあ生まれた時から白髪が生えていたのか・・・』

ポイズン「このお・・・ボロ時代遅れヘッポコウィザードめえ・・・

」

ウォーロック『この生まれつき白髪やろうめえ・・・』

「注意・ハクビのウォーロックはもの凄く仲が悪いです（笑）」

ロックマン「（冗談で言ったのに・・・）」

アイリ「これじゃあ、もうどっちがねばすけとか関係ないわね・・・

」

ハヤト「これはロックマン対ポイズンじゃなくて・・・ウォーロック体ポイズンだね」

アイリ「ハヤト・・・いつから居たの？」

ハヤト「ずっと！」

アイリ「そうなの・・・（影うつっ！？）」

そして・・・

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ウォーロック『よし、俺が勝てばお前の頭は白髪だ!』

ポイズン『いいぜ、ただし俺が勝てばお前は時代遅れつてことだ・

・』

アイリ「(ロックマンはもう関係ないわね・・・)」

ムセイ「ふうあぶなかったあゝ」↑変身が解けていた

ウォーロック『うおおりや!』

ズバッ!

サツ

ポイズン「動きは早いがそんなの俺には当たらないぜ!くらえ毒霧

!」

プシューー

ウォーロック『周りが見えない!』

ポイズン「ハハハ少しでもすつたら体が麻痺するぜ!」

ズバッ

ポイズンは攻撃された・・・

ポイズン「ぐはつつ・・・(何で毒霧が効かないんだつつ!)」

ウォーロック『残念だったな俺は「ウィザード」なんで、たいてい

これぐらいの毒はきかねえ!』

ザザっー

ポイズン「くっ・・・ウィザードをなめていた・・・だがこれなら

どうだ!ポイズンソード!」

ズバッ・・・パシッ!

ウォーロックは受け止めた

ポイズン「何っ・・・」

ウォーロック『へっ、これぐらい俺にはスローで見えるぜ・・・』

ポイズン「・・・だったら・・・」

ズバァァン

ウォーロック『ぐはっ・・・チツ油断してしまった・・・』

ポイズンはもう片方の腕にポイズンソードをだした
ウォーロック『やるじゃねえーか・・・』

ポイズン「お前こそな・・・」

ムセイ「絶対に俺の事わすれてるよね？」

アイリ「・・・そうね、あの二人絶対ムセイの事わすれて
るわね・・・」

ムセイ「・・・無念・・・」

この戦いは約五時間かった・・・

そして・・・

ドサッ

ドサッ

ウォーロック『はあはあ・・・』

ポイズン「ぜえぜえ・・・お前結構やるな・・・」

ウォーロック『お前こそな・・・』

ポイズン「またやろうぜ！」

ウォーロック『ああっ！』

そしてポイズンとウォーロックの間に友情が芽生えそして・・・
ウォーロック『次の勝負にお前の髪は白髪と証明させてやる』

ポイズン「こつちだつて俺がかつてお前がもの凄く時代遅れなボロ
ボロデラックスつて事わ証明してやるよ」

・・・そして二人の仲はもつと悪くなつた・・・

ムセイ「・・・俺はなんのためにここに？」

第20話 ポイズンVS・・・ウォーロック!? (後書き)

次回は久しぶりの学校!だが、事件が?
次回をお楽しみに!

第21話 学校で事件！？（前書き）

いやゝ最近書けなくってそして今日書けた！

なんか嬉しい・・・

第21話 学校で事件！？

ここはコダマ第二小学校、今日は来週行く修学旅行の計画中であつた・・・

裏星「さあーーーーーで、来週はとうとう修学旅行でえーーーーす！ーーーー！」

ムセイ「（だから何故、裏星はこういうイベントがあるとテンションが上がるんだ！？）」

裏星「では・・・来週は、皆で遊ぶ時間がありますのでその間皆さんは何をしたいですか？」

ムセイ「はーい」

裏星「何かねムセイ君」

ムセイ「電波人間対決がいいです」

裏星「却下ーーーー！この前のお楽しみ会で隣の隣の隣のクラスでそれやって学校の3分の1が破壊されたでしょーーーー！」

ムセイ「まあまあいいじゃねーか、そんな時はハクビが金を使って治すから」

ハクビ「そうそう俺が居る限り何回壊してもこの金で・・・」

裏星「いいや！すべてがお金で解決などするかー！そして何故ここに隣の隣の隣のクラスのハクビ君がここにいるのかね？あなたのクラスはここじゃないでしょーーーー！」

ハクビ「まあまあ」

裏星「「まあまあ」じゃないーーーー！軽いな君は！」

ハクビ「じゃーこのクラスになる（金の力で）」

裏星「「じゃー」ってなんだ！？このクラスになっちゃだめだろ！ーーーー！」

ハクビ「フッフッフ・・・なんだ？もしかしてお前この金！がほしいのか？」

数分後・・・

職員室

竹滝「だめだなー先生はこんな生徒にした覚えはないけどなー」

そして戻ってムセイのクラスは・・・

裏星「さあ——でどうする?」

ムセイ「なあ……裏星は何かいいの無いの？」

裏星「もちろんあります・・・それは前回でできなかった2300回飛びの大縄です！」

ムセイ「却下」

[illegible]

ムセイ「はあ……なんでいつもこうなるかな……」

その時

ウー
ウー
ウー
ウー

学校のけいほうかなった

裏星「おや？一体なんでしょう？」

『侵入者です侵入者です、生徒の皆さんは危険なので教室から出ないでください……くりかえします……』

裏星「侵入者ですつて〜〜〜〜！？」

ムセイ「黙れ」

すると先生が教室にもどってきた

先生「みなさん聞いてください、どうやら侵入者は電波変換して
いて危険です、そしてこれから私達先生はおなじく電波変換してその
侵入者を追い出しますので、生徒の皆さんはここで待っててください
い」

ムセイ「なんかやばい感じだな・・・」

ハクビ「そうだな・・・」

裏星「そうですね……って何でハクビ君がまたここに!？」

ハクビ「さあ？」

裏星「さあ？」
「じゃないだろ！」

先生「そこっ！しずかに・・・」

裏星「・・・はい・・・」

先生「では、私は侵入者を探しに行ってきます、皆さんはここから出ないこと・・・いいわね？」

そして先生は侵入者を探しに行つた・・・

裏星「・・・・・・・・・」

ムセイ「・・・やっと黙つたな裏星・・・」

ハクビ「そうだな・・・なあしりとりしない？」

ムセイ「いいねーんじゃー俺から・・・「りんご」」

ハクビ「「ゴリラ」」

ムセイ「「ラッパ」」

ハクビ「「パンダ」」

ムセイ「「ダイナマイト」」

ハクビ「「解く」」

???「「食う」」

ムセイ「次は「う」か・・・」

ハクビ「・・・ムセイ・・・」

ムセイ「なんだよ今かんが・・・え・・・て？」

ムセイ達の目の前に見知らぬ男が立っていた・・・

ムセイ「・・・「うそーん」・・・」

第21話 学校で事件！？（後書き）

次回、一体侵入者の正体とは・・・？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2161w/>

新・流星のロックマン 2300

2012年1月13日17時49分発行